

平田生雄さんを偲んで(三回忌)

高浜 FC 大林利達

4月3日は平田さんの命日である。
月日のたつのは早いもので今年は早くも三回忌。
この機会に平田さんのことを書いてみたいと思う。

・出会いのころ

もう15年ぐらい前のことだと思うが平田さんとの出会いはよく覚えている。
それは高浜FCが、今でもお付き合いいただいている四条畷FC主催の大会に参加した時のことで、大会とは別の宴席に招かれそこで初めて会った。
初対面にもかかわらずあっという間に意気投合してしまった。
たいてい初対面では、その場にいる共通の友人や知人を交えて話をするというのが普通だと思うのだが、ほとんど人を介さず話しが弾んだ。

年は私の方が1歳だけ上という、年の近さもあったのかもしれないが、サッカー観や、指導者としての何かに、共鳴するものがあったからだと思う。
事実、遠征から帰って数日後に平田さんからいただいたお手紙に「貴兄のサッカー感に共感・・・」とあった。

縁というのは不思議なもので以後、年に一度や二度は会う機会が出来た。

大阪で会うことが多かったのだが、高浜市へもサッカー教室で三回ほど来てもらったし、サッカー以外のことでも親密になり、奥様とも何度かお会いしたし、私の妻も平田さんご夫妻と電話だったが何度も話す機会があった。

・ホームページ

03年に大した知識も無いのにはずみで高浜FCのホームページを作ることになった。
単なるクラブの情報発信だけでなく「何か」欲しいなと思った。
そこで閃いたのが、平田さんに何か書いてもらおうということだった。
今もっていいアイデアだったと自負している。

平田さんとは最初のころは手紙で、その後は携帯やPCでメールのやり取りを頻繁にしていた。平田さんは文章を書くのが上手だった。
趣旨を話して依頼をしたら「俺でよければ」快く引き受けてくれた。
タイトルは「S級の視線」とし自由に書いて貰った。
平田さんの視野の広さ、人柄のにじみ出た名文の連続だった。

私はホームページの管理人を2年ほどで現在のShibakei氏に代わってもらった。

・人生のクオリティ

09年9月、私は毎年行っている健康診断で胃ガンが見つかった。

何種類かの精密検査を受けることになり、その結果は、「他の臓器などへの転移は見られず」、「初期のものが早期に発見」されたというものだった。

大ごとにならずに済むかと思ったが、ガンの出来ていた位置などもあって、翌10月に胃の全摘手術を受けた。平田さんが亡くなっておよそ半年後のことだった。

術後は2か月ほど自宅療養をした。

「初期のもの」、「転移はない」とは言われてもガンである。

特別気に病む性格ではないと思うが多少は気になる。自宅療養中はネット検索してにわか勉強をしてみたり、TVもついそういう種類の番組をよく見ていた。

そんな時あるTVの番組で、ガンで闘病中の人「人生のクオリティ」という言葉を使っているのに出会った。解釈や用法も様々な言葉だと思った。

術後間もない、そのころの私にはすごくインパクトある言葉だった。

同時にある時の平田さんが言っていた言葉を思い出した。

電話で病気や体調のことを話している時、「主治医に『先生、俺は言葉を失いたくねえ』と言ったんだ」と平田さんは私に言った。

正確な期日は失念したが、入退院を繰り返していたころの自宅療養中の時だったと思う。

TVを見ている時、平田さんのその言葉がよみがえってきた。

ご存知の方も多いと思うが、平田さんは脳に病巣ができた。

医学の知識もないのに軽々しく言うべきではないと思うが、極めて危険な病気であることは私のような者でも容易に察しがついた。

「それよりなにより、まず命を一番に考えてくれ」と私は言った。

もちろん平田さんが「命と言葉」を天秤にかけたわけではないと思うが、サッカーの指導者であり続けるために「言葉を失いたくなかった」のであり、治療や手術によって、それがそこなわれるのを恐れたのだと思う。

病に倒れても、サッカーの指導者であり続けようとした平田さんの姿勢がよくわかる言葉だ。それが平田さんの「人生のクオリティ」だったのだとその時思った。

・S級の視線

平田さんが亡くなってからずっとこの「S級の視線」をどうしたらいいのか考えていた。主なきこのページを平田さん自身はどう思っているのだろうかと考えてみたり、奥様に伺った方がいいのかとも思ったりした。

時間はかかったが、「このままにしておこう」という自分なりの結論を得た。

まず、ひとつは平田さんの友人、知人にとって、このページは平田さんの文章に懐かしくふれることのできる場所である。それだけでも十分存在価値はあると思う。

もうひとつは、生前の平田さんとは面識や交流がなくても、何かのきっかけで「平田生雄」

という人物の存在を知り、興味を持って訪れてくれる人がいるかもしれないと思ったから。もしそんな訪問者がサッカーの指導者なら、平田さんの文章から、指導者として何かをつかんでくれるかもしれないし、若い指導者への指針とでもなれば、それは平田さんにとってこの上もない喜びではないか。だから「このままにしておこう」と決めた。

「S級の視線」は08年2月の第84話が最後になってしまったが、闘病中にも関わらず、平田さんらしく最後まで指導に対する意欲にあふれている。

2011年4月3日

・追記

平田さんのことを書こうとかなり前から思っていた。思ってはいたが実際にはちっとも書けなかった。それは、平田さんを思うといつも残念さが浮かび、亡くなったことを認めたくないような気持ちが自分の中にあったからなのかと思う。それが「S級の視線はこのままにしておく」という自分なりの理由がつかめた途端に、気持ちが少し晴れたような気がした。そうしたらなぜか、平田さんのことを書く気になり、たいした文ではないが案外スラスラ書けた。だから、書き終わった今、平田さんが亡くなったことを、いつまでもグジグジ思うのはもう止めようと思った。

平田さんもそんな私たちを望んでいるわけではないだろうと思う。

それにしても平田さんと話しをしたり酒を飲んだりした時は本当に楽しかった。これは私に限らず平田さんの友人なら誰もが感じていることだと思う。それは、平田さんは何かとパワフルだったが、極めて繊細だったし、気遣いの人だったからだと思う。